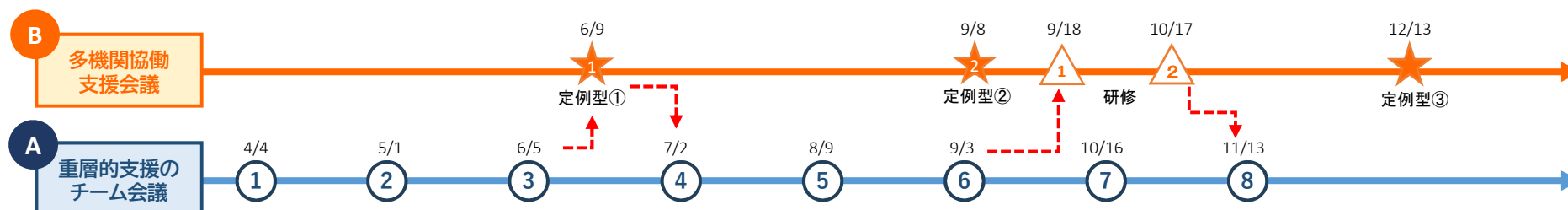
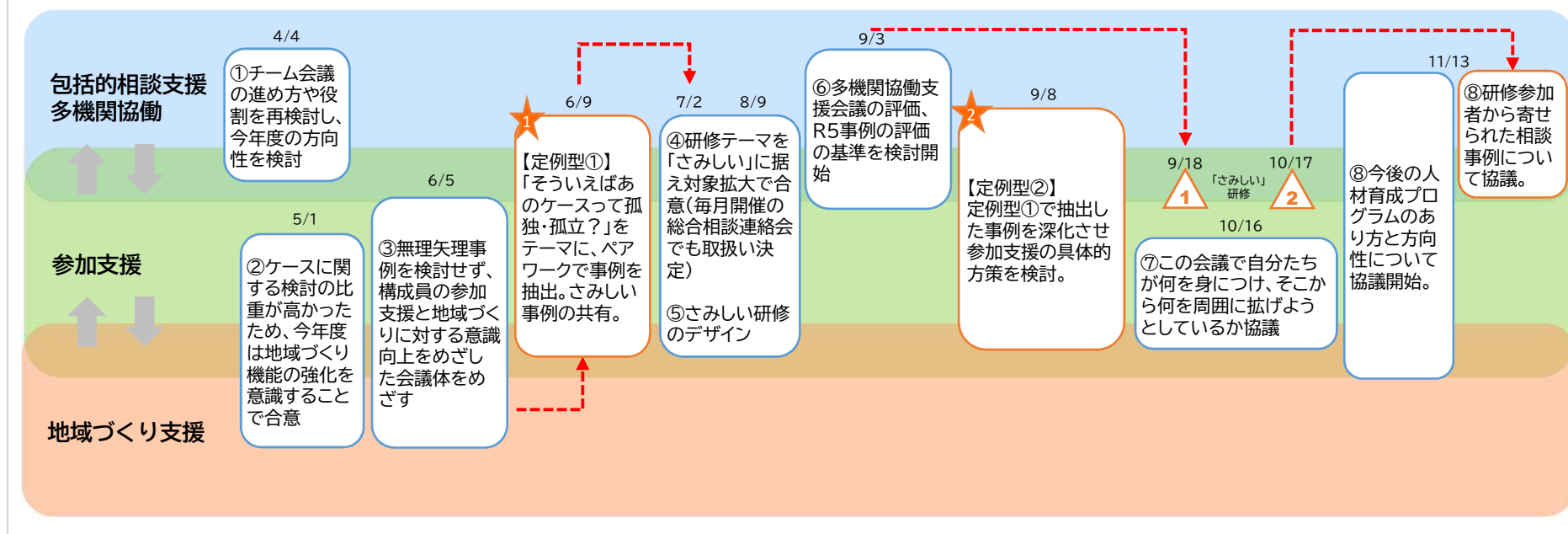


R6 重層的支援のチーム会議・多機関協働支援会議の進行管理①



▼重層的支援のチーム会議と多機関協働支援会議の各回について、主な議題内容に応じて下記のとおり整理

・3つの支援領域(相談支援・参加支援・地域づくり支援)に配置 ・ケースの検討を 、事業・施策の検討を で表示 ・関連性を --- で表示



実施状況

- 個別支援も含め、参加支援のケースを多く取り扱った(定例型での検討:2回、研修テーマに設定:2回)
- 随時型の開催が少なかった(R5:5件、R6:1件 ※12月時点)
- ケース対応だけでなく、体制整備についても検討が行われた(チーム会議の機能整理、人材育成、他の会議体との関係性の整理など)



期待される成果と課題

・成果

■多機関協働支援会議の定例型や研修等で、参加支援について話し合う機会を増やした結果、相談支援に携わる専門職等の参加支援の視点育成につながりつつある。

・課題①

■福祉センター外の関係機関(教育や包括など)において、多機関協働や連携がうまくっているかわからない。

→関係機関が集まっている福祉センター内に留まらず、センター外においてもネットワークを広げていく必要がある。

【試行中】研修の対象や、多機関協働支援会議の参加者枠を広げて実施中

・課題②

■チーム会議で取り扱う議題が参加支援に寄り過ぎている

→より予防的な関わりが必要になるケースが、様々な機関からチーム会議にあがってくる仕組みにする必要がある。

【取組案】総合相談連絡会の有効活用し、参加支援の視点が育ちつつあるように、多機関協働に展開するイメージを持ってもらう。

【取組案】何気ないやり取りの中から、ケースや課題をキャッチするプログラムを検討する。

・課題③

■チーム会議で地域づくり支援についての話し合いができていない。

→多機関協働や参加支援に寄りがちなため、もう少し地域づくりに向けた支援についても目を向ける必要がある。

【取組案】地域づくり支援におけるチーム会議の役割を整理する。